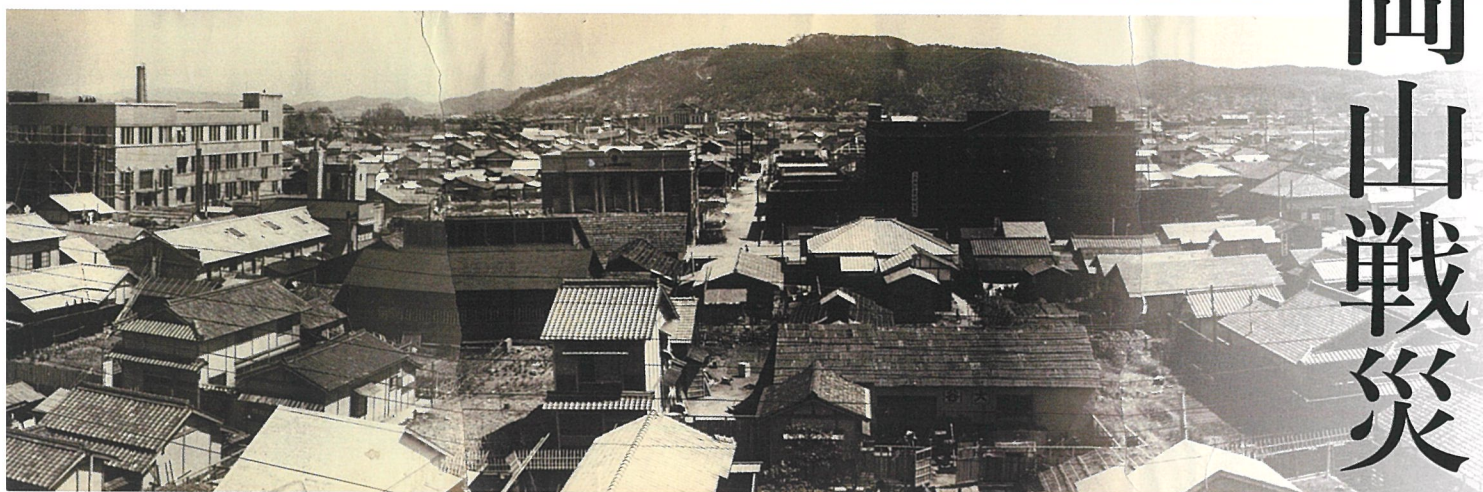


第43回岡山戦災の記録と写真展

戦後75年
資料と記憶の保存と継承

2020



岡山空襲から約一ヶ月後の岡山市街地（上）と1948年（昭和23）4月の岡山市街地（下）部分
いずれも天満屋岡山本店から撮影したもの 坂本一夫 撮影

6月9日（火） - 7月5日（日）

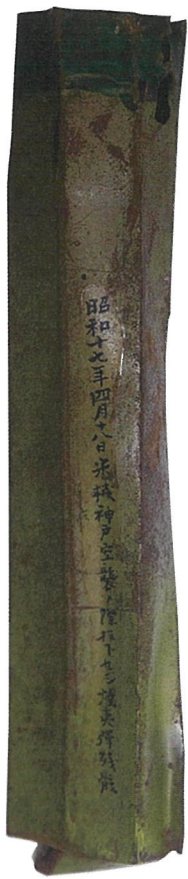
休館日 6月15日（月）、22日（月） *29日（月）は開館
開館時間 午前10時～午後6時 *入館は午後5時30分まで
会場 岡山シティミュージアム 4階展示室、5階岡山空襲展示室
〒700-0024 岡山市北区駅元町15-1 TEL 086-898-3000
主催 岡山市
共催 岡山市教育委員会
後援 岡山県教育委員会
展示協力 岡山市立中央図書館

入場
無料

本展覧会を観覧し、割引チラシ持参の方は企画展「鉄道のまち おかやま」
（岡山シティミュージアム5階）の入場料が減額されます。
一般310円⇒250円、大学、高校生210円⇒160円

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、展覧会・イベントの中止、会期・内容の変更を行う場合があります。
ご了承ください。

EXHIBITION ROOM OF THE OKAYAMA AIR RAIDS 岡山空襲展示室



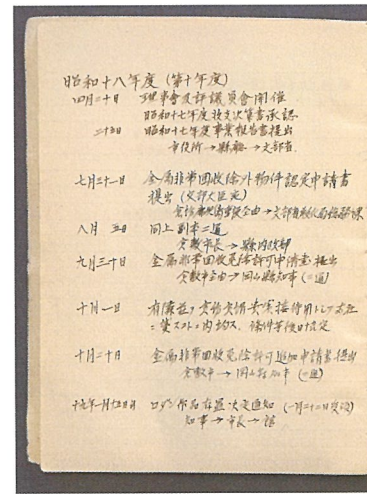
岡山空襲で焼け歪んだ和鏡



岡山空襲から約一ヶ月後の岡山市街地(上)と1948年(昭和23)4月の岡山市街地(下) いずれも天満屋岡山本店から撮影したもの 坂本一夫 撮影



「東田町蓮昌寺正門より境内を望ム」 1946年(昭和21)2月14日 中田政夫 作 個人所蔵



「大原美術館重要庶務要項抄 第一」 公益財団法人 大原美術館所蔵 1943年(昭和18)の金属回収の記録

ドゥリトル空襲(日本本土初空襲)の際神戸に投下されたM54焼夷弾 山本達也所蔵・画像提供

2020年は終戦から75年という節目にあたる年です。戦争によってもたらされた一般市民への被害は各地で非常に大きく、とりわけ戦場となった沖縄は壊滅的な被害を受け、都市空襲と原爆によって焦土と化した都市は66を数えます。戦災に遭った各都市では追悼と二度と戦争を起こしてはならないという反省のもと、事実と記憶を伝えようとする努力が続けられてきました。

しかし、時間が経つにつれ、事実を伝える記録や資料は劣化し、記憶は薄れていきます。もはや戦争を経験していない世代が多数を占める現在、体験者の記憶は伝承になりつつあります。また、わずか数十年ほど前までは、先の戦争に関する資料は歴史資料として重要視されず、十分な保存処置が施されないままに劣化や散逸してしまうことも少なくありませんでした。これらを未来にゆだねるために、どのように保存し整理していくのかという視点が今後ますます重要となっていきます。

岡山市では多くの市民が岡山空襲直後から記録や資料を残してきました。当時の人々がどのような想いで記録を残したのかを資料とともにご紹介し、先人の平和への想いを受け取っていただきたいと思います。あわせて、岡山空襲展示室がどのように記憶と資料の保存へ取り組んできたかもご紹介いたします。

岡山空襲について

1944年(昭和19)から翌年にかけて、日本本土において市街地を対象とした大規模な空襲が米軍によって行われました。岡山市の場合は1945年(昭和20)6月29日に大規模な空襲を受け、当時の市街地の63%を焼失し、少なくとも1737人*の死者が出ました。(*2000人をこえるという説もあります。)

記念シンポジウム

日時 令和2年7月4日(土) 午後1時～4時
会場 岡山シティミュージアム 4階講義室 定員80名(先着順)

- 演題 「私の体験した岡山空襲」(仮題)
講師 赤 兎 正年 さん 岡山空襲体験者
- 演題 「文献史学から見た戦災資料」
講師 長 志 珠 絵 さん 神戸大学国際文化学研究所 教授
- 演題 「米軍資料研究の歩みと今後の課題」
講師 工 藤 洋 三 さん 空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 事務局長

展示解説

会期中の土・日の午後2時から展示室内で岡山空襲展示室の学芸員による展示解説を行います。(約1時間)ただし、7月4日は午前11時から行います。



岡山市北区駅元町15-1
岡山シティミュージアム
TEL 086-898-3000
岡山空襲展示室
TEL 086-253-7070
JR岡山駅から東西連絡通路で直結